

ペン型持効型インスリン フォーミュラVer1.1

2026年8月10日改定

推奨	推奨薬		オプション			
一般名	インスリン グラルギンBS（遺伝子組換え）		インスリン デグルデグ（遺伝子組換え）		インスリン デテムル（遺伝子組換え）	
代表的な製品名	インスリン グラルギンBS注	ランタス注ソロスター（先発品）	BS注無し	トレシーバ注フレックスタッチ	BS注無し	レベミル注フレックスペン
ペン型製剤1本あたりの薬価	970～997円	888円	-	1,559円	-	1,182円
効能・効果	インスリン療法が適応となる糖尿病		インスリン療法が適応となる糖尿病		インスリン療法が適応となる糖尿病	
用法用量	初期は1日1回4～20単位、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日4～80単位を皮下注射する。		初期は1日1回4～20単位、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日4～80単位を皮下注射する。 小児では他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日0.5～1.5単位/kgである。		初期は1日1回4～20単位、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日4～80単位を皮下注射する。	
特徴など	・インスリン グラルギン（先行品）が多くの臨床試験で用いられており、エビデンスが集積している。 ・高齢糖尿病患者における検討では、インスリン デグルデグの重症低血糖の発現はインスリン グラルギンと同様だったと報告されている。 ・妊婦への投与において、Briggs Pregnancy Recommendationではインスリン デテムルと同様にCompatible（ヒトでのデータが十分にあり、胎児へのリスクがないか非常に低いと判断されている）		・小児用量が設定されている。 ・作用持続時間が長く、低血糖の発現がインスリン グラルギンより少ないことが報告されている。 ・開封後に最長8週間まで室温で保存できる。		・妊婦に対するエビデンスを有し、医薬品の胎児に対するリスク分類基準のオーストラリア分類で唯一Aと評価されている。	

解説 有効性・安全性

- ・本フォーミュラは、各種ガイドライン等の情報をもとに作成した。
- ・日本糖尿病学会「糖尿病診療ガイドライン2024」などの国内外ガイドラインにおいて使い分けは明記されていない。

推奨の理由

- ・有効性・安全性、各薬剤の特徴を考慮し、推奨とした。

<参考ガイドライン・文献>

- ・日本糖尿病学会：糖尿病診療ガイドライン2024
- ・日本糖尿病学会・日本老年医学会：高齢者糖尿病治療ガイド2023
- ・日本フォーミュラ学会：（ペン型）持効型インスリン製剤フォーミュラ(Ver.4.0)解説書